

最近の道内経済動向

- 道内景気は、持ち直しの動きがみられる。
- 先行きは持ち直し基調が続くと予想されるものの、原材料価格の上昇や家計負担の増加が続くことで、改善のテンポは緩慢と予想される。

(注) 基調判断は、2022. 10. 21時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(8~9月実績が中心)。

●個人消費は持ち直しの動きがみられる

8月の供給側の統計(商業動態統計など)をみると、百貨店(前年比+24.2%)やコンビニエンスストア(同+5.3%)などは増加となったものの、家電大型専門店(同▲13.2%)やホームセンター(同▲2.0%)は減少した。需要側の統計をみると、家計の消費支出額(8月の家計調査を基に算定)は同+1.1%と3ヵ月連続の増加となった。総じて個人消費は、人流の改善を背景に持ち直しの動きがみられる。

●観光は一部で厳しい状況が続くものの、持ち直しの兆しがみられる

外国人入国者数(9月)は448人。新千歳空港の国際線が再開したことを受けて底離れの動きがみられる。一方、8月の来道者数(国内交通機関経由)は120.5万人(前年比+97.4%)と、10ヵ月連続で増加。コロナ前(19年8月)と比較して78.7%の水準まで回復した。インバウンドは厳しい状況が続くものの、新型コロナウイルスの影響が和らぐ中で道外客が増加基調にあり、全体としては持ち直しの兆しがみられる。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

●住宅建築は下げ止まりの兆しがみられる、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は下げ止まっている

新設住宅着工戸数(8月)は、前年比+6.1%と2ヵ月連続で増加した。利用関係別にみると、持家(同▲23.6%)は10ヵ月連続で減少した一方、貸家(同+25.2%)・分譲住宅(同+74.1%、うちマンションは全増、戸建ては同+39.1%)とも3ヵ月連続の増加となった。日銀札幌支店が10月3日に公表した企業短期経済観測調査(北海道)の設備投資計画(ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額(除く土地投資額))をみると、全産業では前年比+15.4%(前回調査修正率+2.9%ポイント)、製造業は同+38.1%(同+4.6%ポイント)、非製造業は同+6.9%(同+2.1%ポイント)と前年を上回る計画となっている。公共工事請負金額(9月)は、前年比+1.5%(515.3億円)と2ヵ月ぶりの増加となった。発注機関別では、国(同+9.2%)や道(同+19.4%)が増加した一方、市町村(同▲16.5%)などが減少した。既発注分を含めた出来高ベースとなる公共工事出来高(8月)は、同+7.5%と3ヵ月連続で増加となった。

●生産は弱含んでいる

鉱工業生産(8月)は、前月比+0.2%と2ヵ月連続で上昇した。輸送機械やパルプ・紙・紙加工品などを中心に、生産は弱含みで推移している。

●輸出は緩やかに持ち直している

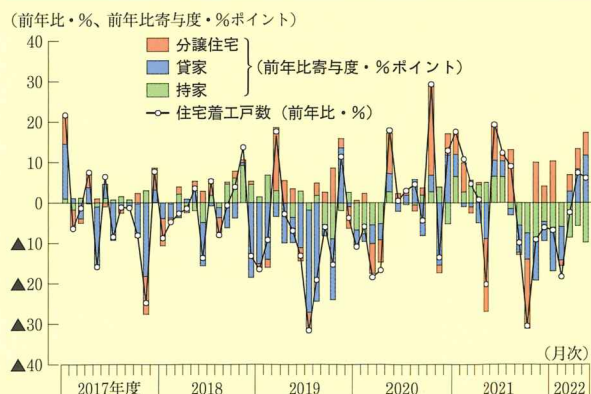
9月の通関輸出額(速報)は、前年比+77.1%(541億円)と5ヵ月連続で前年を上回った。品目別では、「魚介類及び同調製品」(同+33.0%)や「自動車の部分品」(同+59.2%)が大幅な増加となった。

●雇用情勢は持ち直しの兆しがみられる

8月の有効求人倍率(パート含む常用)は、1.12倍(前年差0.15ポイント上昇)と11ヵ月連続で1倍を上回った。有効求職者数は、このところ増加ペースが鈍化しており、雇用情勢は持ち直しの兆しがみられる。

道内の新設住宅着工戸数の推移について

道内の新設住宅着工を利用関係別にみると、持家(注文住宅)は21年度後半以降、減少が続いている。その一方、分譲住宅(戸建て+マンション)が緩やかな増加基調を維持していることに加え、貸家(賃貸アパート・マンション)が足元で増加に転じたことが全体を下支えしている。



(注) 直近は8月まで。
(出所) 国土交通省「住宅着工統計」を基に道銀地域総合研究所作成